

第1回宮津市総合計画策定委員会
会議概要

- 1 開催日時 令和2年6月10日(水) 午後3時～5時13分
- 2 開催場所 宮津市福祉・教育総合プラザ4階 第4コミュニティルーム
- 3 出席者 12名
青山公三委員 飯尾彰浩委員 黒岡芳子委員 坂本亮委員
嶋谷茉莉委員 谷口知弘委員 谷口政史委員 寺田亜由美委員
西田豊明委員 細見節夫委員 松本典子委員 森美忠委員

宮津市(城崎市長、今井副市長、浅野企画財政部長、事務局)
オブザーバー(京都府丹後広域振興局 前田副局長
西日本電信電話株式会社 阿比子部長、立石担当部長)
- 4 欠席者 1名
岩田光雄委員
- 5 市長挨拶
 - ・ 本市のまちづくり指針である「宮津ビジョン2011」が今年度で終了することから、本市の目指すべき新たな将来像を皆様とともに描き、その実現に向けて計画的なまちづくりを進めていくため、本市の最上位のまちづくり指針となる新総合計画を策定する。
 - ・ ICT等の先進的なテクノロジーやSDGs等も取り入れながら、目まぐるしく変化する社会情勢に即した方策を考えていく必要がある。
 - ・ これからのまちづくりの大きな視点として、市民や事業者の方にもより積極的に施策に参画してもらい、市民協働と行政の役割を分かりやすくしていくことも非常に大事なポイントと考えている。
 - ・ 多岐にわたる視点を取り入れ、市民の方にも分かりやすく、また、実効性のある計画を委員の皆様と共に創り上げ、夢と希望があふれ、住み続けられる宮津市にしていきたいと強く想っているので、よろしくお願いしたい。
- 6 委員の紹介
 - ・ 第1回目の策定委員会のため、委員の紹介を行った。
- 7 委員長を選任
 - ・ 宮津市総合計画策定委員会設置要綱第4条の規定に基づき、委員の互選により

委員長に「青山委員」を選任した。

8 委員長挨拶

- ・ 今はコロナの時代だが、後々にコロナがあったからこれができるようになったと言える時代にしていきたい。
- ・ アフターコロナ、with コロナの時代をどう乗り越えていくかという中で、委員の皆さんと一緒に総合計画を考えていきたい。
- ・ 2015年以降の人口の動きを整理すると、地方創生を始めてから、東京一極集中が強まっている。もっと地域が頑張らないといけない。日本の地域が良くなることで、日本全体が良くなると思う。
- ・ コロナで日本のIT化が遅れていることに気付かされたということを考えると、コロナは重要な意味を持っていたと思う。
- ・ 委員の皆さんの感じている思いを、この策定委員会にぶつけていただきたい。
- ・ 総合計画の策定に向けて市民の方とタウンミーティングをしたが、コロナで2回しか出来ていない。そこで表現し切れなかった思いを、総合計画の策定にぶつけていただけたらと思っている。

9 協議事項

(1) 新宮津市総合計画骨子案について

【資料に基づき事務局説明】

(委員長) 素直にこれが分からないということや5つの分野に対する具体の施策イメージやアイデア、提案、質問、こういう考えを入れてほしい、こういう形で実現してほしいということについて、お一人ずつ御意見をいただきたい。それぞれの立場から意見をいただいて、それに関してこういう情報があるとか、事務局から説明してもらおうなどしながら議論を進めていきたい。質問や資料を見てもっとこういうことがあるのではといったことをご意見いただければと思う。

(委員) 10年間の計画なので、まずは10年後にこの社会がどうなっているかを全員が理解した方が正しい議論が導かれると思う。10年後には自動運転が始まっていると思うので、移動手段は確立しているだろうし、水道や下水道も10年後には地下に埋めたセンサーが故障する前に修繕の必要性を察知するからコストが下がるだろうし、福祉もロボットがかなり肉体労働を負担してくれるのもっと働きやすくなり、高齢者も住みやすくなっているだろうと思う。社会がこうなります、その上で宮津市はこっちに舵を切ろう、一点突破でこういう街にしてしていこうというふうに、2020年を前提とせず10年後の社会を前提として議論するのが一番スムーズじゃないかと思った。

(委員長) 2030年は国連がSDGsを実現しようと言っている年であり、社会はドラス

ティックに変わっていく状況にある。私は、2016年くらいから、自動運転はすぐ始まるという話をしていたが、周りからは最初にはいかないよと言われた。しかし、国内で社会実証が実施され、東京ではタクシーが自動運転で動き、茨城県堺町では自治体による取組が始まっているので、その辺も展望した上で施策を考えていただきたい。

(委員) 10年後を考えると、IT化が進んで、ITなしでは生活出来ないのではないかと思う。住民もまずはそういうことを勉強していかないといけないかなと思う。みやづビジョン2011の基本施策の中に、観光を基軸にした産業振興とある。観光というと夜の街だが、19時になったら真っ暗で魅力が全然ない街では、人を呼ぶ魅力がないと思う。ロボットの話が出たが、福祉分野でロボットを使って介護していくのは遠い話しではないと思うし、先を見据えてこの計画を立てていかないと、時代遅れの計画になっていくのではないかと思う。

(委員長) 観光に関して、去年の冬に宮津にヒアリング調査に来たが、とにかく人手がない、人が足りないということだった。それをどう補うか。いろんなことがロボット化してやっていけるので、ぜひ進めていかないといけない。ただ、IT化もちろん重要だが、忘れてはいけないこともあると思うので、それについても議論出来たらと思う。

(委員) 直近で考えると、コロナの影響で人の大移動が始まるかなと思う。私は宮津市への移住者で、関東出身だが、東京の友達と話すと、東京にいたくない、3密から逃れたい、仕事はリモートで出来ることが分かったので地方に行きたいという人が多い。今日の新聞記事で、20代の36%が地方に移住したいと考えているというデータが出ていたので、おそらく都会から地方への流れが出て来るのではないか。その中で、宮津は他の地方と人を取り合っていないといけないので、これから先を考えないといけない。今後10年間の宮津市の総合計画を策定していくが、市の名前を変えても当てはまるような計画では意味がなく、総花的な計画より、宮津市独自の計画で、1つの視点に特化して宮津はこれで行くという方向性を打ち出した方がいいのではないか。例えば、教育は人を引き付けるので、日本一の教育を目指すことを実践していけば、当然、子育て世代の移住者も増えるだろうし、地域の人も誇りを持って子ども達に戻ってこいと言えらると思う。これは一例だが、総花的な計画より1つに特化した計画で、宮津はこれでいくと決めたら良いのではないかと思う。

(委員長) コロナによる人の移動は、ぜひ起こしたい。私が関わっている会議も全てZoomに切り替わったが、やってみたら、これならわざわざ集まらなくてもいいな、ちょっとしたサロンもこれで出来るのではという流れになりつつある。この流れを活用して、宮津らしいことを打ち出せたらと思う。言われるとおり、将来構想の5つの柱を見ると、宮津らしい色を付けられるのは「みんな

の宝をともに発信出来るまちづくり」くらいかなと思う。せっかく総合計画を策定するので、宮津ならではのこを訴えられたらいい。

(委員) 他の方が全て言ってくれたが、特出して宮津が注目されるようになるには、IT化について皆と同じ方向を皆と一緒に求めていって、皆と同じレベルになるのでは意味がないと思う。IT化はすごく必要だと思うが、そこに心まで取られていったら危険だなと思っている。私が今必要だと思っているのは、皆さんの意識改革。今回のコロナでよく分かったが、宮津は観光業に頼りすぎていて、内の力が弱い。タウンミーティングでも出ていたが、若者がいても、大きい総合施設のある舞鶴や福知山に行く、京都市内に出るという感じで、若者は利便性を求めて出て行ってしまふ。その意識を変えないと、宮津を、地域を変えられないと思っている。商店の人を大切にするのは何故かというところ、それは自分達に返ってくることだからとか、あの人頑張っているから今度は私が恩返ししようとか、そういう人の繋がりが強い街に、みんな居場所を求める。東京にいる友達とかも自分の居場所を探しているとよく言っていて、やっぱり自分がほっと出来る場所とか自分が必要とされる場所を求めている。IT化が進むにつれて、自分って何だろうという問いかけが出てくると思うが、その中で、あなたが必要だと言ってもらえる地域や社会に皆さん安心して身を捧げようと思うんじゃないかと思う。私の家業は神社だが、神社はそういうことを大事にしている。一人一人の居場所がある、そんな宮津であってほしいと思う。時代遅れかもしれないが、それはいつの時代でも必要なことで、変わっていかないことだと思うので、出来ればそういうソフトな面を打ち出していくと、今回のコロナで東京から都心から逃れたという人に受け入れられるだろうし、宮津で仕事出来るんだったら、環境は良いし、美しい景色を見ながら、人との対話を楽しみながら、人間らしい生活が出来るところに皆来てくれると思う。地域同士が楽しんでいたら、その輪に入って仲間になりたいと思うだろうし、今は楽しい所に人は集まると思うので、自らが楽しむことで、例えば行政の職員がすごく行政の仕事を楽しんでいるとかしたら、人が自然と集まってくると思う。私はそういうことを大切にしながら、委員会に参加させていただきたいと思っている。

(委員長) 楽しい仕掛けをとにかく作る。皆さんが集まってくる、出て行った人が帰ってくるそういう仕掛けは絶対必要だと思う。今日の資料の中にも、「帰って来るまちづくり」みたいな、ちょっと他ではないキャッチフレーズを出している部分もあるので、ぜひ考えていきたい。また、言われたように、一人よがりの街づくりではなく、地域で取れたものを地域で消費する、地域にあるものを地域の人が消費するというような地域内の経済循環、地域が地域のビジネスを支えていく仕組みは絶対いると思う。こういうことが地域を良くしていくと思う。

(委員) テーマ4を担当したが、タウンミーティングの印象に残っているのは、参

加者の皆さんが熱かったこと。学校の先生が多く、皆さん口を揃えて教育長が素晴らしいと言われていた。人的資源はとても大事で、かつ10年間の計画なので、今からまったく新しい人を育てるというより、今いる人で力がある人、やる気がある人が活躍出来る場を作っていくことがとても大事だと思う。タウンミーティングのテーマ毎に、やる気のある個人や団体の名前が挙がると思う。宮津の独自性は何かを考えるには、宮津にはこういう人がいて、こういう活動しているということをしっかりと見つけていくことが大事だと思う。宮津は歴史文化の蓄積がすごい。そういう物と人を集めて、今、宮津にあるけど地元の人気付いていない地域資源等を見つめ直すことが重要かなと思う。将来構想の視点に市民協働とあるが、タウンミーティングも市民協働の流れを進めていく仕組みだと思うし、そこがとても大事だと思う。タウンミーティングは途中で止まっているが、中止ではなくお休みしているだけだと思うので、参加者の皆さんは、計画策定もそうだし、実際に計画を実施していく段階での担い手にもきっと育っていかれると思うので、話し合いの場作りを丁寧にしていく必要があると思った。オンラインでもいろいろ出来るし、オンラインとオフラインを組み合わせたハイブリッドもあると思うので、策定プロセスに各分野を掛け合わせていくことで可能性が広がると思う。

(委員長) 宮津の独自性の一つに北前船がある。昔、宮津が発展したのは、北前船で日本中、世界中の情報を収集していたことがある。単に北前船が経済力を持っていて、繁華街が出来てそれで栄えたということだけではなく、北前船で日本中の物産だけでなく、大阪であれが足りなさそうだった情報が上手くもたらされたといった状況があったと思う。ぜひ総合計画の中で、現代版の北前船が何かを定義して、盛り込めたらすごく面白いなと思う。そのためのツールが揃いつつあるので、仕立てあげて総合計画に盛り込んでいけたら面白いなと勝手に思っている。

(委員) 私は丹後で生まれて、人生の1/3くらいは丹後で、あとは京都と東京で暮らしてきた。いろいろな見方でこの委員会に参加出来ればと思っている。余所者の強みもあるし、いろいろとお役に立てたらと思う。タイミング的にコロナで今までの前提で物事を考えにくい時期であり、その中で計画を作るのは宮津市も大変だなと思う。ただ、一つ言えることは、今までのデメリットがメリットになりつつあるということ。例えば、人がいない事がメリットになる、満員電車に乗らなくていいので車社会がメリットになるという形で、そこは一つのチャンスだと捉えて、総合計画を策定していったら良いと感じる。やはり、しっかりとした数値目標、メルクマークを作って、その遂行のために施策を作っていくことが大事かなと思う。計画を策定することではなく、計画を実行して成果を出すことが目的なので、それが非常に大事かなと思う。資料の中で主な意見としていろいろと出ているが、これに関しては、

どこに住んでいても、こんな街になったらいいなということに反対する人はいないと思う。ただ、そこで冷静になって、宮津で出来ることを考えていかなければいけない。夢は必要だが、そこから目標を持って、目標を達成するために計画を作って、計画を実施するために行動を起こすことが大事だと思う。骨子があると議論はしやすいので、ポイントを絞って議論をしていったらいいし、しっかりと数値目標を入れていったらいい。まちづくり全体は、コンパクトシティとか言われているが、私の感じとしては、宮津でコンパクトシティがいいのかなと思っている。どちらかと言うと、スマートシティを目指すべきではないか。いろいろなツールがどんどん発達していくと思うので、皆が IT と感じずに普通に使う世界になると思う。意識することなく新しい文明の利器を使って行って、物理的に難しいことを解決していくのが大事かと思う。

(委員長) 数値目標は絶対的に重要な要素なので、これから具体の施策を見ていく上で数値目標を設定する必要がある。総合計画でも設定すると思うが、行政では数値を示して評価していくことが出来ていない所が多い。アメリカだと、データを見せて、この半年でここまで、次の半年でここまで出来ましたとウェブ上で公表して、それに市民が意見を言うということをやっている所がいっぱいあるので、ぜひやってほしい。今回のコロナで分かったが、日本は役所の IT 化が遅れていると思うので、やれることはいっぱいある。民間と協力していろいろな業務の中で IT を使うということが部分的には始まっているが、総合的に取り組めていないというのがある。そういうことをぜひ、総合計画の方針の中に打ち出してほしい。国はすでにやりなさいと掛け声を掛けているが、自治体の方では出来ていないという状況がある。今後はそういったことが必要だと思う。

(委員) 私は 2017 年に大阪から移住してきた。あれもこれもじゃなく、1つこれといった柱に絞って議論したほうがいいと思う。今年の 4 月に自分に何が出来るかなということで、上宮津にお店を作った。お店を作るにあたっていろいろな意見が出たが、全て聞くと、結局、コンセプトがぶれぶれになってしまっていて自分のしたいことが出来ないの、芯を持って議論して、地域コミュニティやこの良い環境にたくさんの人に来てもらう動きを作ったりということをしている。この会議でもそういうことを話せたらいいと思う。2 歳になる息子がいるが、子育てに対してもいろいろと不満があるので、移住して来た余所者で縛りもないので、そういう所の観点でいろいろと話が出来たらと思う。

(委員長) いろいろな意見を聞くとぶれるとのことだが、ブレのない施策はなかなか難しい。総合計画なので、いろいろな分野に目配りしないといけないという要素はあるが、何かしら、これは絶対やろうという分野を絞って提案していただらすごく面白いと思う。

(委員) 昭和48年に大学に入って、ずっとAIについて研究してきた。総合計画にAIを入れるという話に隔世の感がしている。50年を振り返ると、進歩が速いところと遅いところの両方ある。進歩が早かったのは、コンピューターが小さくなり高速になったこと、インターネットが普及してどこでも無線で高速接続できるようになったこと。この2点はものすごいスピードで進化した。他方、進歩が遅いと感じるのは、世の中のIT化だ。10年前に出来ている良いことがまだ進行中だったりする。いま、society5.0と言われているが、情報化社会を標榜したsociety4.0もまだ卒業していないのに次に行くのかと密かに思っている。AIの進歩が進んでいるところと遅れているところを比べてみると、情報のやりとりだけですむ所は進化がすごく速い。進化が遅いのは、物理的な作業を伴い、自動運転車のように大きな質量のついてまわるところだ。人間への関わりがより大きいため、解決すべき問題がより多いからだ。宮津の未来を考えてAI導入をどう進めたらいいのか？上手な先取りによって、先に進めることが大事かなと思う。4月に公立大学の情報学部長に就任して、コロナ禍での大学を挙げての遠隔授業の実現に取り組んだ。情報学部の教員3人でオンライン授業のタスクフォースを作って進めている。私の場合は、Zoomによるオンライン授業はこれまでまったく経験したことがなかった。1クラス80人のオンライン授業と1クラス140人のオンライン授業をタスクフォースのお世話になりつつ、ほとんどぶっつけ本番で取り組むしかなかった。やってみると、オンライン授業のいい所がずいぶんと見つかった。びっくりするのは、Slackを使ってレポートをクラス内公開で提出させると、学生はすぐにレポートを提出し、互いに教え合ったり参考にしたりする。また、対面だとあまり質問が出ないが、オンラインで質問があるかと尋ねるとチャットで山のように質問が飛んで来る。とてもびっくりしたのは、オンライン授業の終わりに、出席者がZoomの拍手/いいねボタンを押してくれたこと。これにはとても感動した。総合計画にもITによるオンラインコミュニケーションのいい所を取り込めたらいいと思う。皆さんと一緒に考えたい。

(委員長) タウンミーティングでも使ったし、宮津市でやっているとは知らなかったが、市民アンケートでもQRコードを導入したり、こういうことは始めているが、地域の中でITを使ってやって、ITだけで終わると、人対人の話しなのに何か足りないよねというのがある。今の話の拍手のように、気持ちを上手く伝えるような社会であることを忘れると、平坦な世の中になると思う。息子がアメリカのシアトルで建築の仕事をしているが、コロナで3月から会社に行かず、オンラインで会議も仕事も全て済ませている。それなら事務所がいらないねと言うと、もっと狭い事務所でもいいという話が出て来ていると言われた。クライアントの中には、これまで都心の良い場所に高い家賃を払ってオフィスを借りていたが、オフィスを無くして、ソーシャライズの部

分だけ週一回ホテルで飲み会等すればいいという話しが出ている会社もあり、アメリカは日本よりもそういったことの進行度が早い。そうなると、オフィスビルがいらなくなって、建築家の仕事が無くなって困るという話も出ているらしいが、それはそれで違う仕事が出てくるのだろうとも思う。

(委員) 市PTA協議会の副会長はならざるを得ないということとなり、女性で移住者ということで丁度市の欲しい人材に当てはまっていたので総合計画の策定委員になったということがあるので、言わせていただくのは一般市民としての意見となる。小学校と幼稚園の子どもがいるので、学校や移住者の目線で話せたらと思う。夫が駐在所勤務でここに来た。特殊な環境であり、地域の方に受け入れてもらいやすい環境だったので、地域にも早く馴染めたが、普通に來たら馴染めないと思う。閉鎖的というか、新しい人を受け付けない雰囲気があるのと、宮津市のHPを見ても何も分からない。ネットを見ても何も宮津市の情報が出てこないし、仕事を探しても仕事が出てこない。正直、來た時の環境はすごくいいなと思った。海の環境もあるし、山も近いし、街の真ん中に出てきたら一応全部の物が揃うというのはあるし、今はネットもあるので、アマゾンとかで買い物が出来るようになったので、昔より生活はしやすくなったと思うが、正直に言うと居づらい。新しい人が來ても、受け入れる環境と仕事がなく、地域の人を受け入れてくる感じが正直ないなと思ったので。直売所も値段が高いと思う。地域の人安いから買いに行きたいと言っていっぱい買いに來たら、周りも地域の人が認めるくらいの野菜なんだと思うと思うが、地域の人が行かないし、値段は高いし、何の特産かも良く分からない物は、持って帰らないし買って帰らないんじゃないかなど思ったりする。愚痴ばかりになってしまっているが、環境が良くて、私は天橋立を見てここに住みたいと思ってここに住んだし、結果、私は住みたいと思ったが、私の友達も遊びに來てくれると、子育てにすごくいい環境で行きたい、住めるなら住みたい、こんなとこに住めるなんていいねと言ってくれるけど、もう一歩というのが無く、いいねだけで終わってしまうので、実際に行動に移すにはもう少しがっつきたものがあるのかなと思う。子育てするにしても、周りのお母さんが宮津市にしよう決めるところが欠けるというか、他の市と同じくらいでというなあなあの感じがあって、自分達でやっていくぞという感じでなく、周りを見て、無難にやっているようなイメージがどうしてもある。学校で英語教育も始まったが、週に1回ちょっとふわっとやるだけとか、身になるのか分からないなというのがあるので、やるならがっつきとやってほしいし、ふわっとし過ぎて、どれもしっかりとした魅力にならないというのがあるので、全体的にやるならがっつきとやっていったらいいのになと一般市民目線としては思っている。

(委員長) 特に新しい人が居づらいという雰囲気は、どこに起因するのか。私は京都市に住んでいるが、京都市もそう。お寺とかあって、環境も良くて、皆、い

い所ですねと言うが、居づらい。宮津の場合は、何が居づらいと思うのか。

(委員) まず情報がないので、どこにも行きようがないというのがある。来た時に、子育てサークルに関しても、私は駐在所に来たので、違う駐在所の方からこういう所でこんなことやっているよと聞いて初めて知った。周りの人に紹介してもらって入ることが出来たが、急に移住してきた人は、誰に話せばいいか分からないし、どこで何をしているか分からないし、どこに行ったらそういう人達と知り合えるかも何も分からない状態。全体的にはそういうことかなと思う。HP 見て知りたくても、HP が古いというか、もっと見やすく分かりやすくしてほしいというか、最近は御年配の方も携帯を持つようになって調べ物をするようになったのに、音声で聞いたら答えが出てくるのだったり、もっと大きく見やすく、ここのボタンを押したらすぐここに行けるとかになっていなくて、ちょっとこまごまとしていて難しくて、見る気がどうしても無くなったり、何をどう情報が得られるのか分からなかったりする。地域に人が入ってくると、誰々が来たらしいよとなるのはあるし、それがいい人なのか悪い人なのかとか、土地を売るのに、いっぱい空家もあるのに、見ず知らずの人に入られたら嫌だから売らないと周りの人が言ってるのを何回も聞いたし、せっかく素敵な家、昔からの立派な家があるのに、すごい空家だらけで、すごいもったいないと思うが、こっちは人は、なかなか使わないのに利用はさせないというのがあって、私も家を買ったが、結局は移住者の方が移住された家を買ったみたいな形で、空家を活用して自分の家にする事は叶わなくて、そういう面でももっと街の人は、もっと周りの人に来てほしいと言うなら、受け入れてほしいというのが私はある。

(委員長) 今の話はすごく重要で、宮津市が抱えている根本問題かもしれないという感じもする。ぜひその辺りも、具体的な施策が出た時に意見を言っていたきたい。宮津市の HP を全部見たわけではないが、役所風のサイトではあるので、今時の新しい若い人達が見るようなものに変えてはどうか。今、大手の私立大学は HP をがらっと変えている。府立大学は旧態依然の HP で、情報学科の先生とボロクソに言っているが、そういうのは変えていかないといけない。昨年、城陽市の産業支援サイトを作る作業を支援したが、その時、役所の情報の壁を破るのに大変な思いをした。今日は NTT さんも来ておられるので御協力いただいて。新しいサイト作りは必要だと思う。

(委員) 皆さんの言われるとおりにかと思う。前回の総合計画の策定時も委員として関わったが、その時も 10 年後どうしますかという話をしたし、次もそうなる。アンケート結果を見ると、前回とほとんど変わっていない。つまり、計画が実現出来ていないということ。おそらく、その前の総合計画の時も同じことがあったと思うが、20 年、30 年越しでも実現出来ていない、改善出来ていないということで、だから、他の委員が言われたようなことが今だに残っている。本当の課題解決のために見ないといけない将来像があって、これ

を解決するために society5.0 に紐付けられている IoT 等を手段としてどう解決していくかはありだと思う。どうしても今だとコロナの関係でリモートとか非接触に話が振れるが、宮津は濃厚接触じゃないとやっていけない街。観光もそう。Face to Face で人と話をしないと成り立たない街。手段として、遠くの人と話をしたり、遠くの人知見をもらうには、確かにリモートは必要だが、その感覚を忘れたらいけない。まずは将来構想で、目指す将来像の課題を解決して行って、そのための手段としてこういうものがあるとする。それで良い街にして行って、これらを解決して行って、住みたい、住みよい街にしていくというのがないと、そもそも総合計画を策定する意味がないと思う。きついことを言うが、前回もそれで、結局、雛型にのった総合計画を10年間やって、今回も同じようにやるなら意味がない。こういう課題がある、それを解決するにはこれがある、そのためにはこういう新しい手段があるということがもっともっと議論されていくべきだと思う。

(委員長) 実際、総合計画に書いても実現出来ていない。これは、計画が進行しているかをチェックしていないのが問題だと思う。皆さんの御意見をいただいて、総合計画を策定したら進行管理をちゃんとしていく。いろいろなプロジェクトを提案したが、それが何年までにどこまで進んだのか、数値目標がどこまで出来たかも含めてしていく。市役所は達成出来なくて批判されたら困るので、目標数値を低めに置いておこうという考えが働く部分もあるが、そうでなく、目標数値は高めに設定して、出来なかったら何故出来なかったかということきちんと整理してもらおうと、いろんなことが前に進むと思うので、その辺りは今後、ぜひやっていきたいと思う。

(委員) 地域でも地域ビジョンを作ったり、職場で30年ビジョン等を作ったりしてきた。昭和から平成にかけては、ある面で世界も平和で安定して、経済もグローバリズムで成長していくという過程の中で、将来を予想するということはある面ではそれほど大きなベクトルが変動しない時代だった。だから、経済拡張でも長期ビジョンをはっきりと打ち出して、それに基づいて国民も政官財も動いていく時代だった。ところが、そういう社会じゃなくなって、まったく未知の世界に入ってきた。超高齢化社会、そして人生100年時代、そして経済はグローバリズムが怪しい、おかしいというふうになってきたが、やはり、これから私達は厳しい時代になっていく。そうすると、政府は何かとなり、国・府・市の役割分担が変わってくると思う。それで、やはりない物ねだりでは出来ないのだから、出来るだけ皆で協働してやる文化を創ろうじゃないかということで、地域おこしをやっている。そういうふうを考えていくと、何が市のビジョンとして一番大事にしないといけないのか。上下水道の問題であるとか、安心、安全のインフラの問題であるとか、高齢者福祉とかになると思うが、その中で、公的な財源が無くなっていく中でやれない、そういうコンプレッションをはっきりと打ち出して、公助と共助、行政の負担

のあり方をどう考えていくかという思考が問われていると思う。人口も簡単に回復することにならないし、限界集落で中山間地はなくなっていく、第一次産業はどんどんアウトになる、そういうふうに考えられるところを押さえていくということで、ベースになるのが何かということをしちっとしていく必要がある。戦後は、労働人口が増えていくことですごく経済成長したとか、グローバリゼーションでいくということが見えてきたが、今は、見えない。未知数のことがあり、コロナも含め衛生問題が深刻化したように、弱い時代だと思う。そういう所を、何がはっきりして、何が不透明なのか、将来、AIがどう動くのかということ議論しながら、出来る分相応な計画を策定すべきだと思う。大胆な絵は描けるが、そんなものが何になるのか。やはり市民が安心を持って、人生100年時代を豊かに暮らすには何がいるのか。今の工業化社会は昭和30年代から僅かな時間で激変した。ところが、世の中の普遍的なものは何百年という普遍的なもので動いていて、助け合いもそういう所に戻さないといけないが、社会環境はそうではない。グローバリゼーション等を見直さないといけない。そういう大きな変革の中にあるので、確定的なことは出来ない。そういう議論を重ねながら、身近で我々が出来ることは何かを押さえていくべきと思っている。

(委員長) 他に何かあれば、発言いただきたい。

(委員) 発言し忘れたが、アフターコロナは、ある意味、変革のチャンスだと思っている。大学の活動もそうだが、コロナによってハードルが下がる。どうせ駄目なので出来るだけで良しとしようとしてハードルを下げることで新しいことが出来る。ハードルが低いことをいいことにして、新しいことにチャレンジしていくことを、ぜひ提言したい。

(委員長) これだけIT化が遅れていることが分かっただけでも重要なこと。これを機会に上手くチャンスに変えていく努力がいる。でも、IT化一つとっても、機械だけで出来ることではなく、人間もいないと出来ない。ツールを使って仕事をする、情報を発信するといった人材がいないと出来ない。そういう人材が育たないと、この街の地力が深まっていかない。そういう点で、コロナの後のチャンスを活かして、チャンスにはいろんな選択肢があるので、そういうことをぜひ総合計画にも盛り込んでいただけるとありがたい。

(委員) 本当に変えてほしいので、私はこの委員会に参加した。皆で話すだけで終わった時に何も変わっていないなら、ここに変えられるメンバーがいるのに変えられないなら、今後も変わらないと思う。せっかく皆さん集まっていて、いろいろ話して変えていこうと思うなら、本当に変えてほしい。変えてください。

(委員長) タウンミーティングのファシリテーターをしたが、タウンミーティングには、意欲のある方達が参加されていた。アメリカのテネシー州にチャタヌーガという人口10万人くらいの街があるが、70年代終わりから80年代にかけ

てアメリカで最も悲惨な街と言われていた。今は、アメリカの知的労働者が最も住みたい街となっている。このギャップの理由は、市民が立ち上がって、一生懸命ワークショップをやって、この街に必要なものは何か、何を变えな
いといけないかということをしつかり議論して、南部の街なので人種差別も
ひどかったが、ものを作るだけでなく、コミュニティの問題もあって、皆で
变えようと 36 のプロジェクトを皆で提案し、10 年から 15 年で全部実現する
というプロセスをしたこと。その結果、今の知的労働者が住みたくなる素晴
らしい街に変貌出来たというのがあった。そういう市民の人達が実際に参加
する、選ばれた人達だけでなく、高校生も大学生も参加するというプロセス
を経て、いろいろなアイデアが出てきて、まちづくりが前に進んだというの
がある。やっぱり計画を策定する以上は、何らかの形で実現していくという
ことを、委員の言われるようにやっていかないと、本当の意味での計画には
ならないと思う。単に行政計画として、ないといけないよねと言って机の上
に積んでおくだけの計画ならいららないと思う。

(委員) コロナ禍で、インターネットが美しくなったということが指摘された。デ
マがあった半面、プロが凄い技を YouTube で連鎖的に披露していくなど、み
んなが苦しんでいる今こそ、自分がみんなのために出来ることをやるという
運動があった。これが出来るのは IT があるから。先ほど言われたように、
心の問題が一番重要なので、この機会に、IT 等でみんなの心を強化していく
方向もあり得ると思う。

(委員) 視点に市民協働があるが、僕もタウンミーティングに参加していたが、タ
ウンミーティングで意見が出て、皆、その先の話をしたかった、もっと議論
を深めたかったが、コロナで 3 回目が出来なかった。その中で、いくつか出
来そうだよねというアイデアも持ち上がっていたと思うので、そういうもの
はチャレンジしてみるとか、ああいうふうに集まると要望大会になってしま
って、お金もないのに夢ばかり語ってしまうことになりがちだが、参加して
いた皆さんは等身大の宮津を見て、これぐらい出来るよねという話があった
と思う。そういった集まりから出てくるメニューにチャレンジしてみて、チ
ェックする体制は必要だと思う。

(委員長) これでタウンミーティングが終わったわけではないと思っている。事務局
で皆さんから提案いただいた意見を整理しており、今後、続けるのはどうか
という話も事務局からあったが、今話を聞いていて、上手く集約したいと
思う。本当は、5 月 31 日にシンポジウムをして、皆さんが出した提案に会
場で投票する企画をしていたが、コロナで難しくなったので、オンラインで
提案に投票するのはいいかなと思うがどうか。

(委員) オンラインで出来ると思う。オンラインだけでなく、会場に来れる人は会
場で、来られない人はオンラインでとハイブリットでやったらいい。オンラ
インだと橋立の海岸からも参加出来るので、イベント仕立てでやるというの

もありだと思う。総合計画を作るだけで終わらせたくないと思う。来年、動き出した時に、参加者が主体的にプロジェクトに関わって動かしていけるように、実際に手を挙げた人が動き出せる、それを後押し出来るような枠組み、市民公募プロジェクトのような形になるかは分からないが、そういうものが総合計画の中に作っていったらいいなと思う。

(委員長) この後、事務局と相談してぜひ実現したい。先ほど、市民協働を日本ですると要望大会になるとあったが、今回、市長にタウンミーティングは各テーマ3回ずつやらせてほしいとお願いした。3回ずつやると5テーマで15回やることになる。何故かという、1回目は行政の批判や地域の愚痴、要望ばかり出て来る。ところが、2回目をやると、こんなこと言っていたのでは駄目だと、ちょっと前に進むにはどうしたらいいかを皆さんが話し始める。現在の資料は、その話し始めたところまでのデータしかない。本当は3回目は皆で提案を考えるということにしていた。提案書の提出に関して事務局で参加者に問い合わせてもらったら、1人では提案を考えることがしんどい、皆で議論する中だと思いつくがという話が結構あった。そういう形で何か上手く整理が出来るととても面白いと思う。せっかく2回まではやったので、それを上手く集約する形で総合計画に引っ張ってこれるような流れで出来るととてもいいと思う。

(委員) 宮津といっても、地域がいろいろと離れている。そこに住んでいる地域の人々が前向きに、自分の地域は何をしたらいいか、皆が一緒に出来ることはないかということ、私は地域毎に考えてやっていかないといけない。宮津全体を考えることはなかなか難しい。高齢者の居場所作りにもなっているが、岩滝口駅でサロンをやっている。宮津市は高齢化しているの、高齢者が作っていて、自分の所で食べるには多すぎる野菜を提供してもらって、先ほど、直売所が高いという意見があったが、私達の所は安くて安心、安全な野菜を販売している。月1回しかしていないが、これをきっかけに地域での各種団体と連携を取って皆でやるということが地域を活性化していくと思っている。私は吉津地区だが、とても住みやすい。市営住宅も出来たし、学校も近いし、駅も近いし、人もいいし、私は誇りに思っている。何とか皆で頑張っていて、自分達の地域は自分達で守って、幸せになっていこうと思っている。皆で、一人の力はしれているので、地域の中で連携して何か考えていくと、何か生まれる。コロナで大変だったが、人間は困ったときに知恵が出るもので、何があっても前向きに、自分達はどうしたらいいのかということ、皆で考えるといろんな知恵が出て、いいアイデアが出て、その地域は活性化していくと思っている。

(委員長) 参加されたオブザーバーの皆さんにも一言いただきたい。

(オブザーバー) 非常に熱い御意見、貴重な御意見を聞かせていただいた。大変参考になった。京都府は、昨年度、総合計画を策定し、併せて地域振興計画も策定した

ので、参考にしていただけたらと思う。行政は日々、数多くの課題に追われて、財源もあり、先ほど言われたとおり総合計画をなかなか達成出来ないままに次の総合計画を策定するという事になっていたと思う。今回の新しい総合計画では、20年後の将来構想の実現に向けて何をしたいかといけな
いかをバックキャストで考えて策定した。その中でも、一人一人が役割を持って府民協働でいろいろなことにチャレンジしていただく、人が輝く、人が生き生きとする形を作っていくことが大切だと思っている。皆さんがチャレンジしていただけるような形を行政としてサポートして行きたい。一般的に日本は失敗が許されないということがあり、なかなか新しいことにチャレンジしない。行政もそうだが、積極的にチャレンジしていく、府民協働で参加していく仕掛けを作っていきたい。地域を良くするのは人なので、人づくり、皆がそれぞれ輝いていく人づくりもしていきたいと思う。アフターコロナは変革のチャンスとあったが、今までのやり方を変えていくある意味大きなチャンスだと思っている。感じたのが、安心・安全は何者にも替えがたいので、何をやっていくにしても、行政は安心・安全を担保していかないといけないし、その点でも、府民・市民の力を借りていかないといけないと思っている。その上でチャレンジしていく地域づくりをしていきたいと思っている。そういう形で宮津市の総合計画を府も一生懸命応援していきたいし、この委員会で意見が出ることを期待している。

(オガザバー) 当社としてどういうお手伝い出来るかということと本日の感想を述べさせていたいただきたい。当社では、ここ1～2年、ICTを使った地域課題の解決に会社を挙げて取り組んでいる。平成11年くらいから、自治体とICTを使って何か出来ないかと本社でやっていて、いっぱい事例を持っている。上手くいかなかった理由がたくさんあるので、どんどん伝えて、いいものを作れるお手伝い出来ればと思う。上手くいかなかった一例を挙げると、国の予算を使って、自治体からもいくらか費用をいただいて住民サービスのシステムを入れたことがある。ほぼ7割、8割、もしかすると100%喜ばれたことがない。なぜかという、皆さんが言われたように、ICTはツールであって、使われるものではなく人が使うものだが、そうならなかったため。これは、国や自治体が悪いのではなく、当時の社会の仕組みがそうだった。最近は大変大きく変化していると思う。京都に来て、去年は京丹後市で、その前は福知山市で兵庫県の方も含めて広域でいろんな検討をしていた。20年前から総合計画や地域情報計画の策定のお手伝いをしているが、昔と比べて、最近では参加させてもらおうと面白く、わくわくする。今日の議論を聞いていて、カジュアルな場でもっと御意見を伺いたいと思った。ICTはやっと使えるようなレベルに達してきて、こういうことをしたい、そのためのツール補助としての事例を紹介出来るようになったので、機会をいただければ御紹介、御相談をさせていただきたいと思う。

(委員長) 本日は活発な御意見をいただいた。簡単にキーワードだけ申し上げたいと思う。キーワードは7つある。1つ目は、10年先の社会はどうなっているのかをきちんと展望した上で市のことを考えないといけない。10年先は一つの大きなキーワードで、この社会がどう展望するかということを考えていただきたい。2番目に、あれもこれもは駄目だ、何らかの特色を持ってという話があったが、最後の方で委員が地域は全部違うと言われた。地域は一つではなく、地域は一つ一つなので、それぞれの地域がそれぞれの地域の個性を出せる計画に出来ないか。その中で、宮津市全体はこれだという持って行き方をしないとイケない。どうしても総合計画はいろんな分野を押しなべて書くことになるので、それが性格のない計画になってしまう原因だが、それだと、地域は一つ一つなのに、そのことが何となく全部薄められてしまう。それが2つ目。3つ目は、皆さんからたくさん出していただいたが、コロナ後のチャンスを活かさずに、どうするのか。いろいろな側面がある、危機管理も含めて、これをどうチャンスに変えていけるのかということを実際にやらないといけないだろう。例えば、IT化をもっともっと進めるという意見もあったし、HPを変えようとかいろいろな意見があった。ITをやるには人材がいる。人材は、福知山公立大学に情報学部が出来たし、宮津高校も情報化に取り組んでいるので、教育機関と上手く連携した人材育成を地域ですていくことが必要。福井県の鯖江市は、随分前から子どものIT化の教育を随分進めている。それを真似しろということではないが、そういう人材育成をしていかないと本当にIT化は達成出来ないというのが3つ目。4つ目は、意識改革。これは、宮津は閉鎖的なところ、居場所がないと感じるという話があった。若い人達に親が宮津に帰ってこなくていいからとにかく外に出て行けと言っているという話が資料の中にあった。もっとその辺りの意識改革をしていかないと街が良くなっていかないとあると思う。5つ目は、意識改革に関係するが、どう今後、今居る人達が、一旦は外に出ても戻ってきて、活躍出来るのか、活躍出来る場をどう提示出来るのかという辺りを考えないと駄目だと思う。6つ目は、IT化と心の問題。ITは好むと好まざるを問わずに進行していくが、心を忘れずに行こうよということは絶対に必要だと思う。意識改革とも関連するかもしれないが、何か宮津の新しいIT化、AI化、情報化を宮津らしい何かを持って進めて行く。最後は、皆さんからも言われたが、宮津ならではのことを考えましょうということ。宮津の観光は濃厚接触そのものだという発言もあったが、これはコロナ後の新しい言い方の一つになるのかなと感じている。宮津ならではの数値目標を考えていくことも必要だと思う。以上のことを念頭において、計画づくりを進めていただきたい。最後に、市長から一言お願いしたい。

(市長) 長時間に渡り、忌憚のない御意見をいただき、感謝申し上げます。耳の痛い御意見から、心が熱くなるような御意見まで、様々いただいた。最後に委員

長にまとめていただいとおりかと思うので、率直に感じたことを話させていた
ただきたい。1点目は、皆さんの想いを受け止めていく覚悟をした。私も研
鑽して、深い懐で皆さんの御意見をしっかりと受け止めていかないといけな
いと決意した。もう1点は、私が今までから感じていたことで、これからの
議論の対象にしていただきたいことが1点ある。悩みごとだが、委員から意
見が出たが、地域地域で素晴らしい取組をされていて、それぞれの地域に本
当に熱い人達がおられて、自分達のために自分達の地域は自分達で守る、活
性化していくということで活動されていて、素晴らしいなと思うが、それが
一歩外に出て、宮津市全体のこととなると少しトーンダウンするといつか、
他人事感といつか、それは私のテリトリーではないよというような感覚を持
たれているように感じている。宮津市は、今年の6月1日で市政施行後66
年が経ち、67年目がスタートしているが、今だに旧村単位の意識が強いよう
に感じる。確かに合併して15年くらいの与謝野町や京丹後市なら旧町のコ
ミュニティが強いというのも分かるが、宮津市はもはや還暦を過ぎている。
地域の繋がりが強いということはいいい面もあるが、ちょっと違った面で見
ると、意外と排他的であったり、保守的で変化に対する恐れといつかこのま
までいいと考える一面も持っているということであり、その辺が今後の宮津
を考える上で一つの論点になると思っている。それをどう突破出来るかが重要
になってくる。これが私の悩みでもあるので、委員の皆さんからお知恵や御
意見をいただきながら考えていきたい。10年間の総合計画を本当に良いもの
にしていきたいので、皆さんからいただいた計画は必ず実現していくとい
う強い決意を改めてこの場で表明させていただきたいと思う。今日はありが
うございました。

(委員長) 市長から決意表明していただいた。決意表明をこういうふうにしたじゃな
いかと言えるようにな総合計画を皆さんと一緒に作っていききたいと思う。

11 その他

- ・ 事務局から、次回の日程等について説明を行った。

12 閉 会